

大遊びせん七十の初御空

藤田湘子

平成九年の作。十七歳で俳句を志し、七十九歳まで活躍された湘子先生であつたが、全句集を紐解いても、ご自身の年齢を詠まれた句はさほど多くない。詠まれなかつた訳ではなからうが、ほとんど句集に残さず、潔く切り捨ててしまつている。(残したのは、十句くらい)

湘子先生の父は長命であつた。後年、平成十五年の句に、「一月十七日父死す。百一歳なりき。」の前書を付け「餅腹や大往生を父に謝す」と詠まれている。

父が元氣であれば自分もまだまだと思ふのは当然で、胃癌手術からも五年近くで回復。「大遊びせん」と鷹三十五周年を目標に、第二次鷹と呼ぶ改革や、あれこれ準備を始めようと決心した「初御空」の明るさだろう。

1997年(69作) 第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩